

□■2015年 夏■□

チャイナ本キャンプ報告書

Friends International Work Camp (FIWC) 九州



発行：2015年夏 FIWC九州チャイナキャンプ

未知の場所、異なる言語、初めて触れる価値観

こんなのに囲まれて、START UPしたキャンプ。

どうなるかわからない。わからないならどうしよう？

取り敢えず周囲に自分の思いや考えをぶつけてみた。

すると彼らは彼らの思いや考えを一生懸命伝えてくれた。

態度でもあらわしてくれた。

互いの本音を伝えあう、単純だけど難しい。

本気になった。必死になった。いつの間にか、打ち解けた。気持ちよかった。

自分が変わる。周囲が変わる。で、自分が変わる。周囲が変わる。

自分になにができるのか、本当にこれは人の為になっているのか

多分答えなんて出ないだろう、出なくたっていい。

でも、思考を止めるな。

必死に考え動き続けた足跡が自分の財産になるから。自信になるから。

濃密な一瞬が散りばめられた終わりなき旅を続けよう。足跡をつけ続けよう。

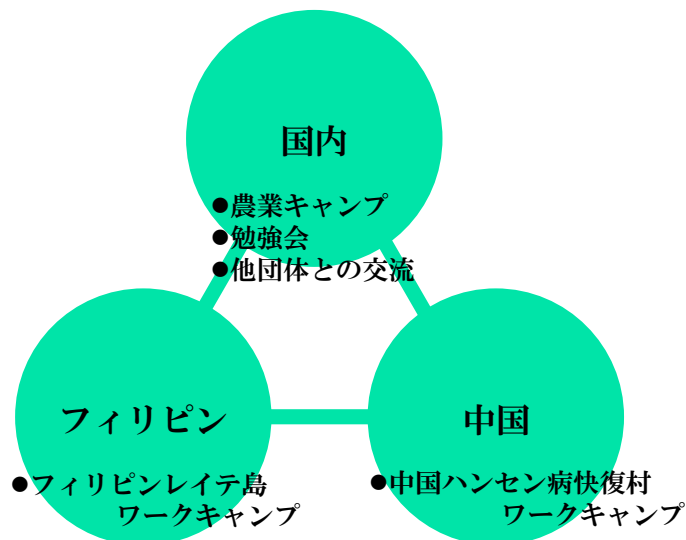
ワークキャンプとは？

自ら労働を体験しながら現地の人々と交流する国際交流やボランティアの形態。

—大辞泉—

ワークキャンプとはボランティア活動の一環であり、世界各国の現地住民と共同生活を行い、福祉や農村開発などさまざまな活動に取り組むことです。私たち FIWC 九州はこのワークキャンプを中心に国際協力、国際交流などの活動を行う学生団体です。今回行われた中国ハンセン病快復村での活動もワークキャンプの一つとなります。

FIWC九州とは？



FIWC九州は、世界の問題を現地住民と一緒に解決に取り組むこと、国内外問わず世界の人々の相互理解の促進に努めることの2つを目的とした団体です。現在は国内、フィリピン、中国を活動地域の三本柱としています。

●中国

中国国内に多数存在するハンセン病快復村でのワークキャンプを現地NGO「家-JIA-」と協力して行っています。

●フィリピン

現地NGO「NorWeLeDePAI」と地方政府の協力のもと、農村部貧困地域におけるインフラ改善事業(水道建設、橋建設など)を行っています。

●国内

大分県耶馬溪での農業キャンプ、毎月開催する勉強会(FIWC Party)、他学生団体やNGO団体とのイベント開催や情報交換などの交流を行っています。

中国キャンプとは？

上記にもあるように私達はかつてハンセン病（以下を参照）にかかり、山奥の農村に隔離された村人が住む村でキャンプを行います。村人はハンセン病が完治した現在も後遺症や周囲からの差別のため、不便な生活を強いられています。私達は村の家屋の一室を借り、村人と共同生活をしながら、以下の4つのことを行います。

- 村のインフラ整備を目的としたワークプロジェクト
- 後遺症により食事や洗濯などの日常生活が困難な村人を手伝うハウスワーク
- 周囲の町や村に対してハンセン病について理解してもらう啓蒙活動
- 村人と楽しい時間を共有するための「パーティ」

これらの活動を私達F I W C九州のメンバーと現地NGO「家—JIA—」の会員である中国人学生が行います。

[参考]

ハンセン病とは？

ハンセン病は細菌(らい菌)によって引き起こされる感染症の1つです。「らい菌」は、皮膚および末しょう神経に炎症を引き起こし、知覚麻痺、運動神経障害や、顔面、四肢等の変形、眼等様々な組織の障害などの症状が現れます。こういった症状による外見の変化が、ハンセン病の差別の発端になってきました。

また、現在のような明確に治療方法が確立されていなかった時代は、隔離政策のみを唯一の解決策とし、日本や中国を始めとした多くの国で患者は療養施設に隔離されてきました。

しかし、らい菌は感染力が弱いため、らい菌に感染しても通常は発病しません。環境・衛生・経済などの状況が改善されれば自然治癒することもあります。1980年以降、世界保健機構(WHO)は、多剤併用療法(MDT)を推奨しています。MDTにより「らい菌」は数日で死滅し、早期に治療すれば後遺症を残さずに完治します。

中国のハンセン病事情

中国には約 600 にも及ぶ大小さまざまなハンセン病快復村があります。WHO が定めた公衆衛生問題としてのハンセン病は制圧されましたが、ハンセン病に対する差別、偏見は根強く残っています。そのため、ハンセン病が治癒しても社会復帰ができない人も多数います。彼らの生活は地方政府支給の生活給付金に依存しています。地方政府によってはその財政上の問題から、非常に小額の給付金しか支給できないところもあります。今現在も 50 年以上前に建設された倒壊寸前の家屋で、水道設備やトイレ、電気すらない環境での生活を余儀なくされ、孤独に生活している高齢の村人が大勢います。

準備～キャンプまでのスケジュール

2月	下見キャンプ
4月	報告会
6月～8月	ミーティング、勉強会
8月	本キャンプ

キャンプ報告

キャンプ地の概要

1. 村の歴史

沅陵高家ハンセン病快復村は湖南省怀化市沅陵县麻溪铺镇荔溪乡高家村にあり、1958年に作られた。2004年に沅陵县コントロールセンターの主管者から、現在の快復村が修繕した。元々村には300人ほどが住んでいたが、亡くなられたり、故郷に帰られたりして、現在は9人の村人が住んでいる。しかし、長期にわたる俗世からの差別や偏見により、現在、村人の自己否定が深刻である。しかし大部分の村と村人の関係はとても良く、村人の親族は近隣の村に村人の面倒をお願いしており、何か不便があったり、道が遠ければ、近隣の住民が村人の必需品を取り換えたりもする。

地理	山頂に位置し、道なりは比較的でこぼこだが、村落に到着する簡易道路があり、道路状況は普通。ふだん車は通らない。村の海拔は高い。
気候	海拔高度の高さゆえ気温の日較差がおおきい。夏季は明け方も寒い。
言語	沅陵の方言を使う。しかし、大多数の村人は語も標準語も聞き取れる。
村人の生計	国から月ごとに支給される600元、野菜の栽培、家畜
村人の数	9名(男:3/女:6)のうち常在6名

交通アクセス

行先	交通手段	所要時間 費用
福岡—広州白雲空港	飛行機	各自ことなる。
広州白雲空港—広州火車站	地下鉄	30分 7元
広州火車站—吉首駅	夜行列車	18時間 140元
吉首駅—JIA 吉首資材庫	バス	10分 2元
JIA 吉首資材庫—山次幸福村	トラック	2時間 キャンプ費用に含む
山次幸福村—沅陵高家ハンセン病快復村	トラック	1時間 キャンプ費用に含む

キャンプ一日の流れ

時間帯	行事
6:30	起床、
7:00	キャンプダンス練習開始
7:30	朝食
8:00	ワーク
12:00	昼食、休憩
14:00	ワーク
18:00	夕飯
21:00	ミーティング
23:00	就寝

2015年キャンプ概要

- ◆期間 8/13～8/24
- ◆参加者 19人（F I W C九州2人、QIAO2人、J I A吉首委員会16人）
- ◆キャンプ費 260元

活動内容

◆ワーク

住環境やインフラの環境改善を目的とした建設プロジェクトを行います。

- 道路整備
- 環境整備
- 階段、床、トイレの補修
- ため池の建設

◆ハウス

後遺症により洗濯入浴などが自力では困難な村人に対して、日常生活の援助を行います。

- 訪問
- デイリーケア
- その他

◆イベント

パーティや食事会などを通して村人と交流することで、同じ時間を共有した思い出を作ります。

- Big Dinner（交流会）
- パーティ
- Last Dinner（最後の食事）

◆ワーク



① 貯水プールの建設

村の使用可能な水は付近の川由来のものであり、供給が停止することもあった。よって川から水の供給がとまっても村が水に困らないために、貯水プールの建設は重要であった。外壁に煉瓦を用い、屋根付き、防水加工を施した貯水プールの作成に着手した。コンクリートと煉瓦を予め調達し、使用した。

しかし天候、資材の必要量における誤算が災いし、建造物が必要な高さに届かず完成とはならなかった。



② 用水路の設置

上記の貯水プールは村人たちの住居域から少し歩く必要がある。そこで貯水プールの水をわざわざ汲みに行くことなしに使用できるように用水路の設置に着手した。住居の前方に穴をほり、そこに管を埋める、という段取りで進めた。

しかし上ワークの進行遅延から、用水管とプールを繋ぐ段階まではいたらなかった。



③ 廃棄物処理場の作成

村には定期的に医者が訪問してきており、その際に与えられるブドウ糖注射など様々な薬品が与えられる。それに伴い、注射器、薬品の入っていた瓶などの廃棄物が生じる。しかし村には決まった廃棄物処理場がないせいかそれらが疎らに散乱していた。ガラスやトゲのあるもの、薬品を放置しておくのは大変危険なので、廃棄物処理場の建設に着手した。まず、貯水プール建設予定地、居住地区よりも高度が低いところを選び汚物が用水に流れ込むのを防げるよう配慮した。

◆ワークの反省

事前の情報共有があまりに少なく、ワークの内容が最後まで日本人にははっきりと伝わっていなかった。漠然と何を作るかは頭にあったものの、作るものの具体的な情報（必要人員、資材、設計図等）が日本側にはなく、ワークにおいてはとてもではないが「日中合同キャンプ」とは言えず、議論も行い辛く、ゴールが具体的にわからないまま作業に従事する状況となってしまった。また、肝心のワークのスケジュールや必要な資材量が十分に議論がなされているとは言えず、ワークで完成に至ったものは何一つないという悲惨な結果をもたらしてしまった。

◆イベント



① 餃子作り

村人達との交流の一環として各村人たちに4、5人ほどの担当班を決めて各班ごとに餃子作りをするイベントを実施した。おそらくハンセン病患者が一般的に抱えている自己否定の念からか、「私たち（村人）が、あなた方（キャンパー）と一緒に食事をとっていいものだろうか」という意見を持っており、参加には全体を通して消極的であった。しかし、村人が参加せずともイベントを進めた。餃子が完成すると当初は消極的であった村人もキャンパーが作った餃子を食べてくれた。ワークに傾きっぱなしだったキャンプが続くなかでキャンパーと村人の交流が深まる良いキッカケになったと思う。



② パーティー

最終日の夕飯後、キャンパーは村人たちを観客に呼び、ダンスや寸劇、コント、歌などを披露した。キャンパーが毎日練習してきたものを披露し、村人たちも盛り上がっていた。また練習をする風景が村に活気を与えたり、キャンパー同士の仲も深まるなど大きな利点があった。



③ プレゼント作り

キャンパーは各々4、5人に分かれ班を作り、1班で1人の村人のホームビジットを行うという形式を採っていた。そしてこのイベントでは、村人の家につけるネームプレートを木彫りで作った。日本語でフリガナをつける等、各班オリジナリティのあるネームプレートを作っており、村人たちも喜んでいた。

◆イベントの反省

ワークに時間を割きすぎたのもあるが、イベント準備に割く時間が全体的に足りていなかった。完成度にも当然支障があった。またイベントで具体的に何をするのかを事前に知らされておらず、混乱する場面も多々あった。村人との交流もキャンプにおける大事な要素であり、イベントの完成度はどれだけ村人と心の距離を縮められるかに直結する。よって今一度準備段階におけるキャンパー間の情報共有、時間確保を徹底せねばならない。

◆ハウスワーク



ハウスワークでは各村人に一人一人に担当班を決め、村人の家に訪問した。中国人キャンパーに訳して貰いながら、会話をした。また、家事などを手伝った。村人は最初は初めて目の前にするだろうキャンパーに戸惑っていたが、10日間経てば少し距離が縮まったように感じた。

◆カンファレンス概要

期間 8/27～8/30

費用 240 円

カンファレンスとは、中国NGO「家—JIA—」の年に一回の JIA 会員代表総会である。

◆スケジュール

27 日	集合
28 日	総会、地区委員会、他団体の報告
29 日	ディスカッション、パーティ
30 日	解散

◆団体紹介



FIWC 九州がどのような団体か、どのような活動をしているのかを日本語で鴻がプレゼンし、それを晶さんが中国語に直すというスタイルで発表した。プレゼンにはいつも FIWC 九州の紹介で使うスライドを用い、主にフィリピンと国内での活動について発表した。発表後質疑応答も行われた。

◆グループディスカッション



カンファレンス3日目にはグループディスカッションが行われた。複数の議題があったが、今回は「JIAの宣伝・広報活動をいかに展開していくか」という議題のディスカッションに参加した。内容を通訳してもらいながら、傍聴だけでなく意見交流も少々できた。キャンパーをどのように募るのか、仲間を増やしていくにはどうすることが効果的かを議論した。FIWC九州の活動ともつながる議題であった。

◆パーティー



最終日の夜には打ち上げパーティーも開催された。各地区が様々な余興を披露し、とても盛り上がる夜であった。日本人キャンパーはソーラン節を披露したのだが、タイランさんも含め会場にいる日本人全員で踊った。JIAの学生たちは本当にフレンドリーで、たくさん話げできた。一緒にお酒を飲んだり、みんなで歌ったり、会場内全体の誰もが楽しんでいた。様々な地区から集まっている多くの学生たちと交流できる有意義な時間であった。

◆スーアン村訪問

期間 8/31~9/4

スーアン村…中国広東省东莞市にある泗安村。この村は他のハンセン病快復村と比べると恵まれた環境であるため、2011年には他の村から40名のハンセン病快復者がやって来ました。現在ハンセン病快復者の数は約80名。月に何回か故郷に帰る人が何人かいるが、ほとんどの人たちはこの村で生活しています。

◆訪問



スーアン村での二日目、三日目は村内にある博物館の観覧や村の施設を案内してもらったり、また、そこに住む村人のもとを訪れたりした。博物館ではスーアン村やそのほかの村から集めた様々な展示品を見ることができ、ハンセン病快復村での人々の生活を想起できた。村人のもとを訪問すると多くの方が笑顔で受け入れてくれ、人との交流を楽しむ村人が比較的に大勢いた。あまり質問したりしなかったのは反省点であった。村人たちは商店を営んでいる人や絵を趣味としている人、おしゃべりや将棋を外で楽しむ人などそれぞれが村での生活を営んでいた。自分の絵や本などの作品を売り、収益を寄付金としている村人もいた。FIWC 東海のキャンプも含め多くのキャンパーがこの村を訪れることが、この村の村人の精神的な支えの一つになっている。

◆村でのカレー



村に来て3日目のお昼頃から手分けしてカレー作りを始めた。出来上がったカレーを持って村人たちの部屋を周り、配った。おいしいといってくれる人もいたが、やはり慣れない味だったということもあり口に合わない人もいた。本当はもっとたくさんの種類の日本食をふるまうはずだったのだが予定より村人の数が多くカレーのみとなってしまった。また、感想を聞く前に次の部屋に行ってしまったのもっと感想を聞けたら良かったと思う。

係反省

◆イベント

- ・今回、訪問する村の下見も行っておらず、村での日程も流動的であったのでそもそもイベントが開催できなかった。
- ・クイズを行う予定であったが、JIAの学生にデモンストレーションをしてみたところ全くクイズの趣旨が伝わらなかった。
- ・歌を披露しようという案もあったが準備段階であいまいになって流れた。
今回はどんな催しをするかキャンプぎりぎりまでまとまらなかった。次回は時間をかけて下準備をして予行までできればよい。
- ・日本食はカレーをふるまうのみになったが、次回も村人に配慮しながら食材や料理を選ぶべき。
- ・自分自身がイベントはどんなものかイメージできていない部分が多く、準備段階から進まなかった。みんなが楽しめる、いろんな人の立場に立った企画力が必要だと思った。

◆記録

- ・カメラをバックに入れたままにして自分も活動に参加してしまっって写真を撮るのを忘れてしまうことがあった。
- ・村を訪問した際、最初のうちは勝手に写真を撮られて村人は嫌な気持ちにならないだろうかと考えたり、私自身も言葉が通じない分、気持ちを読み取ること、伝えることに気を取られてしまったりしてあまり撮ることができなかった。
- ・どうしてもカメラを持っているのが1人だけの状態だったので記録係を増やすか、みんながカメラを持っていたら良かったと思う。

◆会計

- ・基本的に中国人キャンパーがお金の管理をしていたために、自分たちから積極的に把握しようとしないと知らないうちに備品などに使っていたりしたので、もっと日本人も主体となれるように対等な関係を維持することに努めるべきだと感じた。
- ・実質買い出しに行く回数と日時は決まっておき、それ以外で出費が起きることはほとんど無かったために特に日本人側のみが把握できていなかったということにはならなかった。

◆保険

- ・まず大きな反省が、保険バッグを日本に置き忘れてしまったことで、これにより多くのキャンパーに迷惑をかけてしまい、事前の準備をきちんとする必要があると感じた。
- ・キャンプ中に大きな病気にかかったメンバーはいなかったが、誰かが軽い風邪をひいた時にすぐにそのことに気付けなかったのが、保険係としての意識が足りていなかったと感じた。
- ・次からは日ごろからメンバーの異変にすぐ気づけるように気を配ろうと思った。

個人感想

◆櫻井啓介

今回は自分にとって初めてのキャンプで、分からないことだらけで臨みました。キャンプの雰囲気も、中国のキャンパー達とうまくやっていけるかもわからず、不安ではありました。ですが、いざ現地に着いて、中国のキャンパー達と顔合わせをした時、キャンパー達がものすごいフレンドリーで盛り上げてくれて、そこから不安は一気に吹き飛びました。キャンパー間でのコミュニケーションは英語で行うため、少し慣れずにやり辛い部分はあったものの、ジェスチャーなどを使ってコミュニケーションを取り、一緒に活動していく事ができてとても良い経験になりました。キャンプ事態の反省としては、日本人が少なく中国人が大半という状況で、対等な立場でキャンプを進めることができず、情報のシェアなどが出来ていないことが多かったため、次回以降のキャンプでは、日本人の数に関係なく、中国人と同じ状況で「日中キャンプ」ができるように意識していこうと思いました。

初キャンプにも関わらず、すぐに周囲と打ち解け、自慢のパワーをいかしてワークに取り組むさまはまさに大物ルーキー。何事も自分の哲学をもって取り組む姿に惚れました（意味深）笑。

By 鴻

◆金納梨恵

私にとってこのキャンプは様々な第一歩でありました。初めての海外、初めてのキャンプでした。中国語もしゃべれず、英語も得意ではない私にとって JIA の学生と話すことや村人と交流するのは簡単なことではありませんでした。しかし、不思議とコミュニケーションはとることができたのではないかと思います。互いに通じ合おうとする姿勢であったり、笑顔であったり…。言葉がすべてではないことを実感できました。ワークは出来ませんでした。JIA の学生のワークの話の話を聞いたり、吉首のキャンプに参加した二人の話を聞いたりしてワークキャンプは経験してこそ語れるものがあるのだとひしひしと感じました。村人たちは苦しい境遇を乗り越えてきてここまで生きてきています。だからこそ彼らに寄り添うことで生きることとはどういうことか、ということや自分の未熟さについて考えられました。私は中国に関する知識も、ハンセン病快復村に関する知識もまだまだ知らないことが多く、ましてや日本のことも実に様々知らないことがあります。だからこそ少しでもレベルアップして、今まで以上にたくさんの視野を持てるようになって、次はワークにも参加して、もっと中国人キャンパーや村人と一緒にいたい！という思いが出てきました。今回のスーアン村の短い訪問だけでもたくさんの出会いがあり、多くのことを感じられたので、第一歩の次の一歩を踏み出せばよいと思います。

たまに抜けてるけどしっかり者でいい意味で大雑把で時に毒舌だけど中国での活動と今後は誰よりも一生懸命考えてた熱い子です！

By ノドングリッシュ

◆益坂和

中国から日本に帰って来てまず私はたくさんの人に「中国はすごく楽しかった」ということを伝えた。というのも、私が中国に行くことが決定したと友人に伝えたときほとんどの人が「中国は危ないよ」「行って大丈夫？」などと中国に対して否定的な人が多かったからである。なので少しでもそんな考えが減ってくれたらと思った。私が今回のチャイナキャンプで経験できたことは主に2つ、カンファレンスとスーアン村への訪問である。私は初めての海外だったにも関わらず何百人もの中国の学生たちに囲まれることとなった。最初は言葉の壁への不安が大きかったが自分も相手も拙い英語で気持ちを伝えようと必死だったので余計に打ち解けていく実感があつた。お互いの国の言葉を教えあっているうちに「おはよう」などの挨拶を中国人が日本語で、日本人が中国語で言うようになっていくのは面白い光景だったと思う。お互いの国のゲームを教えあつてやるのもとても盛り上がった。報告会やディベートにも参加させてもらい、中国の学生たちの意識の高さを目の当たりにして刺激を受けることもできた。桂林地区とも再び繋がることができ、今後のチャイナキャンプにとって非常に意味ある時間だった。スーアン村へ行くことが決まるのは遅く、事前にしっかり調べてから行くことができなかつたが、村のスタッフや看護師の方々がとても優しい人たちで資料室で歴史を紹介してくれたり村人の部屋を案内してくれたりしたおかげで、ハンセン病のことも学べたし村人とスムーズに交流することもできた。ただ、せっかくの機会だったのでもっと質問を多くすべきだったと反省した。村人たちは私たちが歓迎してくれ、たくさん笑顔を見せてくれた。たった数日間居ただけではあつたがお別れは寂しかった。中国の滞在は2週間という短い間だったが、この期間に学んだこと、経験したこと、そして新たな繋がりを大事にしてこれからのチャイナキャンプを活気あるものにしていきたい。

ノドグリッシュ！天然だが、初海外なのに常に元気！そして、なんでも食べる良い子なんです！笑

By アキラ

◆佐藤鴻

一体何をやるかもはっきりとはわからない、周囲で交わされる言葉の意味など全く見当もつかない。そんな状況でこのキャンプはスタートしてしまった。でもこんな状況でスタートしたキャンプだからこそ、周囲を理解しあい、思いを共有したいと必死に働きかけざるを得なかつた。言葉がわからなければ、自分も歩み寄り、相手にも歩みよってもらおうよう頼む。議論の内容がわからなければ聞く。これが良かったのだと思う。自分の思いをぶつけていくと、中国人キャンパーは誠意をもって対応してくれた。彼らの思いや考えも正直にぶつけてくれた。この気持ちと気持ちの応酬が、互いの心の距離を縮め、キャンプの一時一時を鮮烈で忘れがたいものに変えていってくれた。変わっていったのは自分と中国

人キャンパーの関係だけではない。初めて触れるキャンパーに最初は戸惑っていたであろう村人たちも、次第に笑顔を見せてくれるようになった。素直に驚き、嬉しかった。たった10日間でこんなにも周囲の状況が変わり、その変化を肌で感じるなんてこと、中々ないと思う。今までで一番濃密な時間だった。自分は運よくキャンプ後、カンファレンス、二つ目の村へのビジット、と立て続けに様々な経験をさせてもらった。一つ目の村で身に着けた自分の思いや考えを素直に伝えるという態度は新たに出会う人々とすぐ打ち解ける強力なツールになった。言語など大した問題ではなかった。「自分が動けば周囲は変わる」みたいなことは最近流行りの自己啓発本でイヤというほど言い尽くされてるけど、いまいち実感が沸かなかった。でもキャンプを終えてからは身をもって感じ、納得することができた。自ら考え動くほど、限りなく充実していくワークキャンプは村人達よりもむしろキャンパーが得るものが多く、このキャンプに携わってくれた全てに感謝したい気持ちで今は一杯です。

特技はどんな相手ともそのコミュ力で仲良くなること！！！！

By けいすけ

◆久保晶

今回は5年ぶりにチャイナキャンプに参加したが、ハンセン病快復村でのワークキャンプに参加できず、残念だった。でも、新しいキャンパーと一緒に家のカンファレンスに参加して、家のいろいろな地区の人々と交流したり、ワークキャンプについて語ったりして、本当に興味深かった。また、FIWC 東海委員会がキャンプを行ってるスーアン村を訪れた。そこで中国ハンセン病快復村についての博物館があって、その中には中国各地にあるハンセン病快復村の物や資料がたくさんあった。昔のハンセン病患者がどのような差別を受けてきたかがわかるような貴重な資料も多くあって、大変勉強になった。そして、途切れていたFIWC九州と家の桂林地区との共同ワークキャンプを再開する目処が立って、本当によかった。特に家の桂林地区とこれからもキャンプが継続できるように綿密な年間スケジュールや協定を結ぶことができ、本当によかった。

行動力も実行力も抜群！中国語ペラペラ！みんなの頼れる兄貴。「NO BEER, NO CAMP」の精神を学ばせてもらいました！笑

By りえ

会計報告

	1元=20円
航空券	¥65,000
保険	¥7,000
ビザ	¥3,000
キャンプ費	¥5,200 (260 元)
交通費	¥20,000
滞在費	¥30,000
合計	¥110,200
(各キャンパーによって費用が若干異なるため、代表者を記載)	

全体反省

<準備>

◆良かった点

- ・チャイナの説明会を実施でき OB も来てくれた
- ・忘れ物がなかったのでキャンプで特に困らなかった
- ・議事録がしっかり書けていた
- ・過去の報告書でキャンプのイメージができた
- ・QIAO とのキャンプでは企画ができていたので短い準備で参加できた
- ・QIAO が準備で先行していたので次にやるべきことが明確だった

◆悪かった点

- ・参加者の確認が遅かった
- ・スケジュール決めが遅かった
- ・航空券、ビザの取得が遅かった
- ・他団体との連絡がスムーズにできなかった
- ・ハンセン病に対する知識がなかった
- ・行うイベントが決まらなかった
- ・お金が足りなかった
- ・MTG のスケジュールが合わなかった

<QIAO とのキャンプ>

◆良かった点

- ・中国人キャンパーとすぐに打ち解けた
- ・村人達が心を開いてくれた

◆悪かった点

- ・他団体と話し合う機会が少なかった（雑談が少なかった）
- ・他団体と自身の方向性が確認できなかった
- ・キャンパー同士でうまく連携が取れていない部分があった
- ・ワークが完成しなかった
- ・もっと意見すべきだった
- ・計画書が共有されていなかった

<カンファレンス>

◆良かった点

- ・今までのカンファレンスで一番良かった
- ・FIWC 九州の発表ができた
- ・ソーラン節が踊れた
- ・今回からグループディスカッションだったのでうまく解けこめた
- ・のどか、りえがうまく解けこめた
- ・アイスブレイクがあり多くの中国人と交流できた
- ・JIA の学生と話せた
- ・桂林の人達と協定を結ぶことができた

◆悪かった点

- ・両替をしておくべきだった
- ・ホテルの情報が分かっていなかった
- ・ソーラン節の許可が遅かった
- ・日本人どうしでかたまりがちだった

<スーアン>

◆良かった点

- ・ハンセン病の歴史を含め村のことを知れた
- ・それぞれの村の違いを知れた
- ・歴史資料館に行けた
- ・カレーを作ることができた

◆悪かった点

- ・まとまったことができなかった
- ・訪問するところを事前に決められなかった
- ・スケジュールが決まっていなかった
- ・寝てる時間が多かった
- ・やりたいことができなかった